

映像文化財保存・活用事業

取組に至る背景・事業の目的

- 家庭に眠る8ミリフィルムは、いまや劣化の危機に晒されている。大町市の財産ともいえる風物等の貴重な映像をデジタル化し保存することで、後世へ文化を継承していくことを目的に平成20年「大町映像文化財を残す会」を発足した。
- デジタル化した映像を活用して短編映画やCMを制作。ふるさとCM大賞NAGANOで奨励賞を受賞するなど、映像学習や上映会を通して映像制作技術の向上と人材育成にも力を入れ、映像文化活動の再興を目指し取り組んでいる。

事業内容

- 映像制作事業
発掘した多くの貴重な映像を使い、新作の短編映画3本を制作した。
 - ・「受け継がれる流鏑馬」・「上諏訪神社の由来」
 - ・「やまびこ国体」
- 映像保存・啓発事業
映像制作教室を開催。プロの映像編集者や、カメラマンを講師に編集方法の基礎知識や制作のノウハウを学び、撮影準備から完成まで実践により短編映像を制作した。
【参加者10名 計6回】



【映像撮影風景】

事業効果

- 新作短編映画の上映会を老人会や市内でのイベント、お祭り等で開催した。
計8回 来場者数延べ429人
半世紀前の大町の映像にお年寄りからは「懐かしい風景に当時のこと思い出した」という声や、若い人からは「貴重な映像に感動した」「多くの人に見てもらいたい」という感想をいただいた。3世代交流による文化継承や観光振興にも活用方法が見出せた。
- 映像制作教室の開催により、映像に対して関心を深め映像スキルを向上することで、地域の映像文化活動の裾野を広げることが期待される。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 市内にはたくさんの貴重な映像文化財が眠っている。時代とともに移り変わってゆく大町市を映像から振り返り、大町の歴史と文化を再認識することができた。この貴重な財産を地域の振興に役立てたい。
- 映像制作に関わる人材育成が課題となっているが、古い映像のデジタル化の作業を更に進め、やがては長編映画の制作に取り組みたい。

【選定のポイント】

昔の映像をデジタル化することにより、3本の短編映画を制作し、老人会、自治会等で上映会を実施し、当時の貴重な映像を市民と共有する取組となった。

団体名 大町映像文化財を残す会（大町市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0261-23-6876	事業費	964,127円
	支援金額	879,000円